一般社団法人日本総合健診医学会
２０２４年度　新審議員候補者名簿

（名）

現審議員数	108
新審議員候補者数	6
審議員就任予定者数合計	114

新審議員候補者名簿

	氏名	勤務先	職名・職種	推薦者	理事会承認
1	増澤　浩一	公益財団法人筑波メディカルセンター　つくば総合健診センター	所長	髙橋　敦彦	2024年度第1回
2	高橋　俊雅	医療法人社団　松和会　望星新宿南口クリニック	院長	髙橋　敦彦	2024年度第1回
3	尾形　珠恵	東海大学医学部付属東京病院　健診センター		樫原　英俊	2024年度第1回
4	護山　健悟	東海大学医学部付属八王子病院　健康管理センター	センター長	西﨑　泰弘	2024年度第1回
5	西田　清明	公益財団法人ライフ･エクステンション研究所付属永寿総合健診･予防医療センター	事務次長	林　務	2024年度第1回
6	熊倉　泰久	聖路加国際病院　附属クリニック　予防医療センター	センター長	増田　勝紀	2024年度第1回

以上

次々期（第５４回）大会長について

次々期（第５４回）大会長として、髙木　重人先生（横浜リーフみなとみらい健診クリニック　院長）がノミネートされ、2023（令和 5）年 6 月 8 日付理事会において承認されました。

以上

日野原重明賞（健康予防科学賞）
授賞式

第 25 回日野原重明（健康予防科学）賞について

日野原重明賞選考委員会
委員長　　髙橋　敦彦

日野原重明健康予防科学賞は、生活習慣病の提唱や総合健診の創設を始めとする、広範な保健衛生と健康科学の分野において貢献された、日野原重明先生の功績を永く伝えるとともに、総合健診並びに予防医学の発展に貢献された方を顕彰する目的で設立されました。

今年度の受賞者は、名古屋大学 名誉教授・一般社団法人 健康評価施設査定機構理事長 佐藤祐造先生、並びに東海大学 名誉教授・国家公務員共済組合連合会立川病院 名誉院長 篠原幸人先生に決定いたしました。

ここに本賞を授与し、佐藤先生と篠原先生のご業績を讃えることにいたします。

日本総合健診医学会　日野原重明賞受賞にあたって

一般社団法人健康評価施設査定機構　理事長
名古屋大学　名誉教授　　佐藤　祐造

この度、日野原重明賞を授与いただくこと、身に余る光栄に存じます。西﨑泰弘理事長、浜田宏大会長、髙橋敦彦選考委員長はじめ関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

医学・医療の領域では、安静と十分な栄養補給が疾病に対する基本方針となってきました。ところが近年、適度な食事制限と身体運動の継続は筋肉のトレーニングになるとともに、内臓脂肪を効率的に減少させ、個体のインスリン抵抗性を改善し、糖尿病など生活習慣病の予防・治療だけでなく、老化防止、認知症の予防にも役立つことが「常識」となっています。

私は 1965 年、名古屋大学医学部を卒業、70 年に同大大学院修了後、主に同大総合保健体育科学センターに勤務しました。75 年に糖尿病・肥満症・老化と運動についての研究を開始しました。同大大学院医学系研究科教授も併任、大学院生・研究生 40 人に博士（医学）取得指導を行いました。

運動療法に関する研究開始当初は先達もなく、途方にくれました。幸いにして、78 年から 1 年間文部省（現文部科学省）在外研究員として、スウェーデンカロリンスカ研究所臨床生理学教室（主任 J. Wahren 教授）に留学、正常血糖クランプ（euglycemic clamp）法を考案者である Dr. Fronzo 博士より直接習得することができました。

帰国後、この方法を用いて、トレーニング効果を生化学的に評価しました。その結果、ジョキングなど有酸素運動トレーニングの継続は、２型糖尿病の原因であるインスリン抵抗性を改善させる。一方、筋力・筋量の低下している（サルコペニア）高齢者では、有酸素運動に加えて、ダンベルやハーフスクワットなどレジスタンス運動（筋トレ）を併用する等の知見が得られました。

また、日本糖尿病学会に、運動療法に関する調査研究委員会を立ち上げ、糖尿病運動療法に関する全国調査を実施し、糖尿病患者の運動療法実施率が 52%であることを報告しました。

糖尿病運動療法の研究・臨床に関して、ほとんど白紙の状態から研究に従事し、運動療法に関する「常識形成」に多少なりとも役割をはたすことができたと思っています。

勤務先に関して、名古屋大、愛知学院大、愛知みずほ大（学長）と 3 つの大学で 79 歳まで常勤教員を努め、叙勲で瑞宝中受章も受章しました。

日野原重明先生との関連では、日野原先生も御出席の貴学会第 42 回大会（2014 年 1 月、東京）で、特別講演「ドッグ健診の評価：質の評価の重視」の講師を努めさせていただきました。また、2016 年 8 月、当機構理事長就任後、日野原先生に単独で面会し総合健診の意義・重要性について、種々ご教授いただきました。お教えを機構の日常業務に反映させています。

末筆になりましたが、日野原重明賞受賞に重ねて御礼申し上げますとともに、貴学会の益々のご発展と会員の皆さまのご活躍を祈念いたします。

2024 年 1 月

略歴

佐藤　祐造（さとう　ゆうぞう）先生

学歴

1965 年 3 月　名古屋大学医学部医学科卒

1970 年 3 月　名古屋大学大学院医学研究科（内科学第三）修了　医学博士

職歴

1970 年　名古屋大学医学部第三内科　助手

1975 年　名古屋大学総合保健体育科学センター　講師

1978 年　文部科学省在外研究員　カロリンスカ研究所（スウェーデン）留学（1979 年迄）

1987 年　名古屋大学総合保健体育科学センター　教授・センター長（1995―99 年）

1991 年　名古屋大学大学院医学系研究科教授併任

2004 年　名古屋大学　名誉教授

2004 年　愛知学院大学心身科学部健康科学科　教授・学部長（2007―11 年）

2013 年　愛知みずほ大学大学院研究科長・学長（2016―2020 年）

2016 年　（一社）健康評価施設査定機構　理事長（現在に至る）

学会活動

日本内科学会　認定医

日本糖尿病学会　名誉会員（専門医・指導医）

日本東洋医学会　名誉会員（2010 年、第 61 回会頭）

日本人間ドック学会　専門医（1993 年、第 43 回会長）

日本老年医学会　専門医

日本臨床スポーツ医学会　名誉会員（2002 年、第 13 回会長）

主な著書

糖尿病の診療（新興医学出版・共著）1979 年

糖尿病教室（新興医学出版・単著）1999 年

高齢者運動処方ガイドライン（南江堂・編著）2002 年

入門漢方医学（南江堂・編著）2002 年

糖尿病運動療法指導マニュアル（南江堂・編著）2011 年

テキスト健康科学改訂第 2 版（南江堂・編著）2017 年

内科学第 11 版（朝倉書店・分担）2017 年

受賞歴

日本体力医学会賞（1992 年 9 月）（共同受賞）

日本糖尿病学会坂口賞（2010 年 5 月）

日本体質医学会賞（2018 年 9 月）

瑞宝中綬章　受章（2021 年 11 月）

日本総合健診医学会日野原重明賞（2024 年 1 月予定）

以上

日本総合健診医学会 日野原重明賞 受賞にあたって
－日野原先生との想い出－

東海大学　名誉教授
国家公務員共済組合連合会立川病院　名誉院長　篠原　幸人

栄誉ある日野原重明賞を貴学会から授与いただくことは、日野原先生にお世話になった自分にとって、この上ない喜びであります。特に、日本人間ドック学会理事長であった私が、この名誉ある賞を拝受することは、西﨑泰弘理事長、浜田宏大会長、髙橋敦彦選考委員長をはじめ貴学会の選考委員・理事の先生方のお心の広さに驚くと共に、深く深く感謝申し上げます。

日野原重明先生に私がはじめてお会いしたのは、昭和 38 年、今から 60 年も前のことになります。小学校から在籍していた慶應義塾を飛び出して、外の空気を少しでも吸収しようと、インターンとして聖ルカ国際病院を私は選びました。当時、先生は米国より戻られた直後で、私にはとてもまぶしい存在でありました。内科を 1 か月近くロテイトした際は、毎日、1 対 1 での先生の回診があり、それが私の最大の楽しみでした。何十人もの患者さんの今までの検査成績値、現病歴や既往歴、入院中の臨床症候や検査値の変化を、カルテを見直さなくても全て覚えて説明しなければならず、大変緊張した毎日であったことをよく覚えています。またそれが、その後の私の臨床医としての生きざま（あり様？）に大きな影響を与えていただいたことも事実です。甲状腺機能低下症を疑われて入院された患者さんが、当時の教科書には載っていなかった Pericarditis（心膜炎）による Protein-losing gastroenteropathy（タンパク漏出性胃腸症）であると診断するために、患者さんの便を持って東京大学放射線科に何回も伺い、そのご協力で診断を確定できました。また欧米誌の特集号に纏められていた本症の全て， 約 200～300 ページ以上を、数日間で読破して、先生の質問に答えなければならない duty を課されたのは、インターン中最大の想い出として私の大きな財産となりました。

脳神経内科医になりたかった私は、一年で母校に戻りましたが、レジデントとして聖ルカに残る道もあるよという主旨のお言葉を、大変有難く覚えております。

その後、内科学会などでお目にかかる度に、「よく覚えていますよ」と声をかけていただき、また私の大学教授退任の会には、わざわざ出席していただき、お言葉をいただいたのも嬉しい想い出の一つです。

私が共済医学会を主催した時も特別講演に 2 年続けて来ていただき、立川病院院長時代には立川ロータリークラブでの講演までお引き受けいただいたのも、大変うれしい記憶として残っております。

聖ルカ病院の委員会に院外委員として参加させていただいたある日に、恐る恐る「僭越ですが、総合健診医学会と人間ドック学会はいつかご一緒に仕事したほうが、会員の方々のためにお役に立つのでは？」と、まさに直球勝負で質問したことがあります。これはまだ私が人間ドック学会理事長になるかなり前の話です。先生は表情も変えられず「いつかその日が来ればね」とだけお答えになり、他には何もおっしゃいませんでした。

残念ながら、その数年後に先生は急逝され、それ以上、この件について、お話し出来なかったことを今でも残念に思っております。微力な私にはこの案件を煮詰めることが出来ないまま、定年で人間ドック学会理事長の職を辞しましたが、先生ともっとこの件についてお話ししたかったと今でも残念でなりません。

先生は晩年、「首下がり病」様の症状もあり、日常生活でも多少ご不自由だったかと愚考いたしておりましたが、私にはまだまだ教えていただきたいことが沢山あり、急逝されたときは本当に悔しく残念に思いました。しかし先生の数々のお教えはこの日本総合健診医学会に脈々と受け継がれていると信じております。

最後に、この度、日野原重明賞を授与賜りましたことを、改めて御礼申し上げるとともに、貴学会のご発展を心から祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。どうも有難うございました。

2024 年 1 月

略歴

篠原　幸人（しのはら　ゆきと）先生

【学歴・職歴】

昭和　３８年　慶應義塾大学医学部卒業
３８～３９年　聖路加国際病院インターン
３９年　慶應義塾大学医学部内科（相沢豊三教授大学院）
４２～４４年　米国ﾃﾞﾄﾛｲﾄ･ｳｪｲﾝ州立大学およびﾋｭｰｽﾄﾝ･ﾍﾞｲﾗｰ大学 Research Associate
４９年　慶應義塾大学病院内科医長
５１年　東海大学医学部神経内科科長
５８年　東海大学医学部内科（神経内科）主任教授
平成　１４年　東海大学医学部寄付講座 東洋医学・代替医療講座 代表兼任
１６年　東海大学医学部特任教授　付属東京病院 脳卒中・神経センター長
１５～２１年　日本脳卒中学会　理事長
１８～２５年　国家公務員共済組合連合会 立川病院 院長
１９年　東海大学名誉教授
２５～３０年　国家公務員共済組合連合会 顧問、立川病院 顧問
２８～３０年　日本人間ドック学会 理事長
３０年　国家公務員共済組合連合会立川病院 名誉院長
現在に至る。

以上